

# 公民科（政治経済）学習指導案

授業者  
指導教諭

1 日時：令和5年6月18日金曜日 2 限目（9時40分～10時30分）

2 学級：3年2組（男子18名、女子20名、計38名）

3 教材：「最新政治・経済資料集2021」（第一学習社）  
「高校政治・経済 新訂版」（実教出版）  
授業用プリント

4 単元計画：

第2編 現代の経済

第2章 現代経済のしくみ

3 国民所得と経済成長（3時間）

国民経済の規模を示す指標、国内総生産と国民所得（1時間）

GDP 指標の限界、経済成長（本時）

景気循環、インフレーションとデフレーション（1時間）

5 教材観：本単元では、経済規模を表すための GDP や GNI などの様々な指標、それらの指標の限界や矛盾、それに代わる指標としての国民純福祉やグリーン GDP に関して学習する。また、GDP や GNI の拡大である経済成長の要因や現在の課題、経済の周期的な動きである景気循環や好景気、不景気時の物価に重点を当てて理解させる。本時では、GDP や GNI などの指標の限界と経済成長に関して学習する。GDP、GNI は、経済規模を図ることができるが、国民の豊かさや幸福度は考慮されていない。そこで、これらに代わる指標として国民純福祉やグリーン GDP などの指標が提案されているが、定着までは至っていない。さらに、経済成長は GDP や GNI の拡大のことであるが、日本では近年少子高齢化による生産年齢人口の減少が顕著に表れ、拡大は停滞している。今後の日本では、これらに対応するため技術革新や人材育成が課題である。

6 生徒観：本学級の生徒は、にぎやかであるが、授業には意欲的な生徒とそれほど意欲的ではない生徒が二極的である印象である。また、発問や問いかけに対する反応

は比較的よいため、発問を取り入れながら生徒の授業参加を図りたい。

7 指導観：国の豊かさや貧しさの基準や経済の仕組み、それぞれの課題等は、高校生の日常生活においては体験することや耳にすることが少ない事柄であるが、できる限り生徒の生活に身近な例を交えて説明し、理解を深めることができるように授業を進める。また、50分の中で適度に発問、机間巡視を行うことで生徒の集中力も維持させる。

8 単元の目標：経済規模を表す指標とその限界についてや、それらの指標の拡大を実現するために必要な要因と今後の日本における経済成長の課題を理解する。

9 本時の目標：GDPをはじめとする経済規模を示す指標の限界、国の豊かさを示すうでの矛盾がどういうものなのかということ、また、経済成長の要因と日本の経済成長の課題、改善策を考え、理解する。

#### 10 本時の展開

時間	学習内容・教員の働きかけ	生徒の活動	留意点
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・号令</li> <li>・プリント返却プリント配布</li> <li>・前回の復習</li> </ul> <p>Q：GDP は日本語で？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・号令</li> </ul> <p>Qに答える。 A国内総生産 (1)を埋める。</p>	<p>簡潔に。</p> <p>以下、Qでは座席表から一人当て、当てた生徒のところまで行って答えを聞く。 また、生徒がわからない場合は聞き方を変え、ヒントを与える。</p>
展開① 25分	<p>【GDP 指標の限界】</p> <p>Q 国の人口が多いと GDP は大きくなりやすい？なりにくい？</p> <p>GDP を国の人口で割ったものを1人当たり GDP といい、</p>	<p>Qに答える。 A大きくなりやすい</p> <p>(2)を埋める。 1人当たり GDP</p>	<p>例を出して生徒がイメージしやすくする。</p>

	<p>1人当たりの平均的な経済力を見ることができる。</p> <p>資料集P213で各国のGDPと一人当たりGDPを確認させる。</p> <p>国の経済力を表す指標であるGDPやGNIには市場で取引が行われない物事は、生活面において利益があっても加算されない。</p> <p>Q 大気汚染、水質汚濁、騒音問題等の環境問題をなんとという？</p> <p>Q どんなことが起こっていたら平和ではない支出が発生する？</p> <p>公害などの環境問題や戦争に関する支出は加算されない。経済力・経済規模以外の豊かさを図ることには限界がある。</p> <p>GDPやGNIに代わる指標が提案されている。</p> <p>・新たな指標の例</p> <p>GNPに、福祉の観点からみてプラス要因を貨幣換算して加え、一方でマイナス要因は貨幣換算して差し引くという国</p>	<p>日本や中国、その他の国のGDPと一人当たりGDPを見比べて、GDPが実態とは異なることを理解する。</p> <p>(3)、(4)、(5)を埋める。</p> <p>家事労働、育児、ボランティア活動</p> <p>Qに答える。</p> <p>A 公害</p> <p>(6)を埋める。</p> <p>Qに答える。</p> <p>A 戦争</p> <p>(7)を埋める。</p> <p>(8)、(9)、(10)を埋める。</p> <p>国民純福祉(NNW)、グリーンGDP、国民総幸福</p>	<p>どのグラフを見たらよいかを示しながら机問巡視する。</p> <p>いくつかの例について説明して、生徒が理解しやすいように働きかける。</p> <p>細かい例を出す。</p> <p>貨幣換算されるものとされないものを強調す</p>
--	---	---	---

<p>展開② 15分</p>	<p>民純福祉。 GDP から環境、自然に関する損失を貨幣換算して差し引いたグリーン GDP 貨幣換算ではなくポイント制である国民総幸福。</p> <p>新たな指標は定着しておらず、政治の目的は経済規模の増大が重視されている。しかし、GDP や GNI を拡大しても、人々の生活満足度が比例して拡大するとは限らない。</p> <p>教科書 P.130③のグラフで GDP と生活満足度の関係を確認させる。</p> <p>【経済成長】 一定期間に国の経済規模が拡大することを経済成長、それを割合で表したものを経済成長率という。</p> <p>経済成長率には名目経済成長率と実質経済成長率があり、通常はより実態に沿った実質経済成長率を使用することを理解させる。</p> <p>資料集 P.216⑤のグラフから 2 種類の経済成長率の差を読み取らせる。</p>	<p>指示された箇所に線を引く。</p> <p>(11) を埋める。 GDP や GNI を増やすこと</p> <p>新たな指標のメリットを理解する。</p> <p>グラフから、GDP が拡大しても生活満足度が比例して拡大するとは限らないということを理解する。</p> <p>(12) を埋める。 経済成長 (13) を埋める。 経済成長率</p> <p>(14)、(15) を埋める。 名目経済成長率、実質経済成長率</p> <p>名目経済成長率と実質経済成長率の矛盾を理解する。</p>	<p>る。</p> <p>どのグラフを見たらよいか示しながら机間巡視を行う。</p> <p>名目経済成長率と実質経済成長率は名目成長率と実質成長率のことであることを補足する。</p> <p>どのグラフか、グラフのどの部分を見たらよいかを示しながら机間巡視を行う。</p>
--------------------	---	---	---

	<p>Q1973年に物価上昇のきっかけとなった出来事は？</p> <p>実質経済成長率はGDPデフレーターによって実質GDPを求め、そこから算出することができる。</p> <p>経済成長は、労働人口、資本ストック、技術革新という3つの要素が主となる要因で実現する。</p> <p>技術革新の例は産業革命であることを理解させる。</p> <p>日本は第一次産業から第二、第三次産業への移行、人口増加、資本ストックの増大、海外技術の導入と改良によって経緯成長を遂げてきた。</p> <p>今後の日本は、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少や国内の資本ストックの減少により経済成長が停滞、下降が予想されるため、技術革新が重要な役割を果たすとされている。</p>	<p>Qに答える。 A オイルショック</p> <p>(16)を埋める。 GDPデフレーター</p> <p>(17)、(18)、(19)を埋める。 労働人口、資本ストック、技術革新</p> <p>技術革新の重要性を理解する。</p> <p>日本の経済成長の原動力がどのようなものなのかを理解する。</p> <p>(20)、(21)を埋める。 少子高齢化、生産年齢人口 これまでの日本とこれからの日本の課題を理解する。</p>	<p>計算式が教科書や資料集に記載されていることを補足する。</p> <p>それぞれの例を挙げて理解しやすくする。</p> <p>戦後復興や高度経済成長を例に出す。</p> <p>クラス数などの例を挙げる。</p>
<p>まとめ 3分</p>	<p>GDPには限界があり、全ての豊かさを図ることができるわけではないこと、日本の経済成長の課題を理解させる。</p> <p>・プリント回収・号令</p>	<p>本時の学習内容を再度確認する。</p> <p>・プリント回収・号令</p>	